



年末年始雑感

神戸大学 経済経営研究所
副所長・教授 浜口 伸明

神戸大学に勤務する以前に住んでいた、千葉県北西部・我孫子市の古いマンションを今も手放さずにいる。民間不動産会社が1977年に建てた総戸数1000近い大規模分譲集合住宅である。JR我孫子駅まで1kmほどの距離で、都心までの通勤時間は1時間半くらいになるが、大阪や東京で自治体が造成したマンモス・ニュータウンよりも間取りが広めで、70年代の団塊の世代が、社宅暮らしから抜け出してマイホームの夢をかなえるには理想的な物件だったろう。この種の「オールド・ニュータウン」の御多分に漏れず、近年では住民の高齢化が進んで空き家もあるようだ。最寄り駅周辺に新築のマンションがまとまって供給された後は、物件価格が下がったとしてもこの辺で住宅を購入しようとする若い家族はいないのだろう。それでも私の家族にとっては、25年ほど前に移り住んで子育てをした思い出深い場所である。最近はこのマンションで年末年始を過ごしている。

昨年末の教授会で4月以降の次期研究所長候補者に選ばれ、今年の正月は少々重たい気分でも新しい年を迎えた。正式に所長を務めることになれば2度目で、「出戻り」は100年近い研究所の歴史の中で初めてのことらしい。前に所長を務めた時のことはあまり良い思い出はなく、ご迷惑をかけたことばかり思い出される。武田学長をはじめ、現大学執行部には前の任期の時からお世話になっている方が多いのは気休めだが、当時とは研究所と大学全体を取り巻く状況も様変わりしているので、経験者だからと言って所長の役割が良く務まるというわけではないだろう。大事な舵取りを過たないように、身の引き締まる思いだ。

話を我孫子に戻そう。我孫子には手賀沼という周囲が20kmほどの大きな沼があり、その風光明媚なことから明治から大正にかけて、嘉納治五郎や白樺派の文人、武者小路実篤、志賀直哉、柳宗悦らがここに移り住んだとされる。しかし、件のマンションが建てられたころ以降の急速な都市化で水の汚染が進み、私が住んでいたころの手賀沼はずっと水質汚染日本一と呼ばれていた（環境省・公共用水域の水質測定結果による）。

ところが最近になって周辺自治体と住民の取り組みのおかげで、手賀沼はワースト1の汚名を返上した（とはいえ、まだワースト3位ではあるのだが）。インターネット情報によると外周にはランニングコースも整備されたらしい。実はランニングは、昨年神戸市内で山手から海手に転居してから、田中宏暁著『ランニングする前に読む本』（ブルーバックス）に触発されて健康維持のために始めた新しい習慣だが、10kmを超える距離を一度に走ったことは数えるほどしかない。そこで、沼のちょうど真ん中あたりに手賀沼大橋が

架かっているのです、半分ずつ二回に分けてこの年末年始に手賀沼を一周してみることにしました。

第1回目は12月30日。驚いたことに、以前は目にすることがなかった野鳥がたくさんいることだ。カモ、カモメ、サギ。なんと白鳥までいるではないか！鳥がいるということは魚も再生しているということだろう。葦の原も広がっている。この日は自然の力強さに目を奪われながら、快調に半周を走り終えた。

2回目は元旦。残りの半周を目指す。走り始めたころ前方に私よりも若い男性のランナーが見える。しばらく同じくらいのペースで走ってみたが、少しずつ距離を離される。あきらめて自分のペースを守ることにする。終点の目標にしていた出発点の大橋が視界に入ってくる。もう少しでゴールかと思ったら沼岸が意外に湾曲していて、なかなかたどり着かない。そういえば、前に所長を務めたとき、任期終盤に「あと何日」を表示するカウントダウン・アプリをスマホに入れて毎日眺めながら任期为満了するのを楽しみにしていたのを思い出した。

ふと前を見ると、さっき引き離されたランナーの背中が少しずつ近づいてくるようだ。それを励みに少しスピードを上げる。さらに彼に近づいた。数分後、ついに追いつき、追い越した。彼は私に目標にされていたことなど気にも留めないだろうが、私のような「にこにこペース」(田中, 前掲書)の鈍足ランナーでもあきらめずに自分のペースをしっかりと守っていけば、他人を上回ることもできる。所長業もこの心構えで取り組もう、と思う。

すると、そんな私の小さな達成感を一気に吹き飛ばすように、すごいスピードで私の横を走り抜けて行く同年代のランナーがいる。ああ、私は彼のように速く走れない。それはしょうがない。力量が違うのだ。私はやはり自分のできることを自分のペースでやっという、と再び自分に言い聞かせる。

ようやく大橋だ。目標達成。ランニングは終了だ、と思ったら、先ほど私が追い抜いた若いランナーが大橋を通り越してその先まで走っていった。橋を通り過ぎたら後は一周するしかない。ああ、彼は私よりもっと高いところに目標を置いていたのだ。勝手に勝ち負けをつけて自己満足に浸る自分の小ささを恥じた。

いくつかの小さな教訓を残して、懐かしい我孫子での年末年始が過ぎた。さて、4月からどんな2年間になるだろうか。2019年には研究所創立100周年という節目の大きなイベントが待っている。マイペースで粘り強く謙虚に取り組んでいきますので、ご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。